

能登半島地震 JRAT活動報告

2024年1月30日～2月1日

社会医療法人緑泉会 米盛病院

理学療法士 神田 隆博 久米 康隆





2024年1月30日～2月1日まで石川県でJRAT活動に参加し、
活動した内容を報告する。

JRAT災害派遣までの流れ



1月10日、鹿児島JRATのHPにて令和6年能登半島地震災害JRAT派遣スタッフ募集が発出



Google formで申請

上長へ派遣参加希望の意思を伝え、その日の夕方には当院理事長の承認を得ることができた。職場の協力もあり、鹿児島JRAT1次隊はPT2名でのチーム登録となった。

JRAT災害派遣までの流れ



1月15日、東京のJRAT中央対策本部から派遣要請及び派遣の日程調整の電話連絡を受ける。後日に派遣の委嘱状が送付される



1月25日、石川JRATの活動本部人員調整班の方からMail連絡。オリエンテーションの時間と活動予定のお知らせをいただく。

出発までの準備



災害派遣において、自身の生活については
自身で確保することが原則

【宿泊・食事】

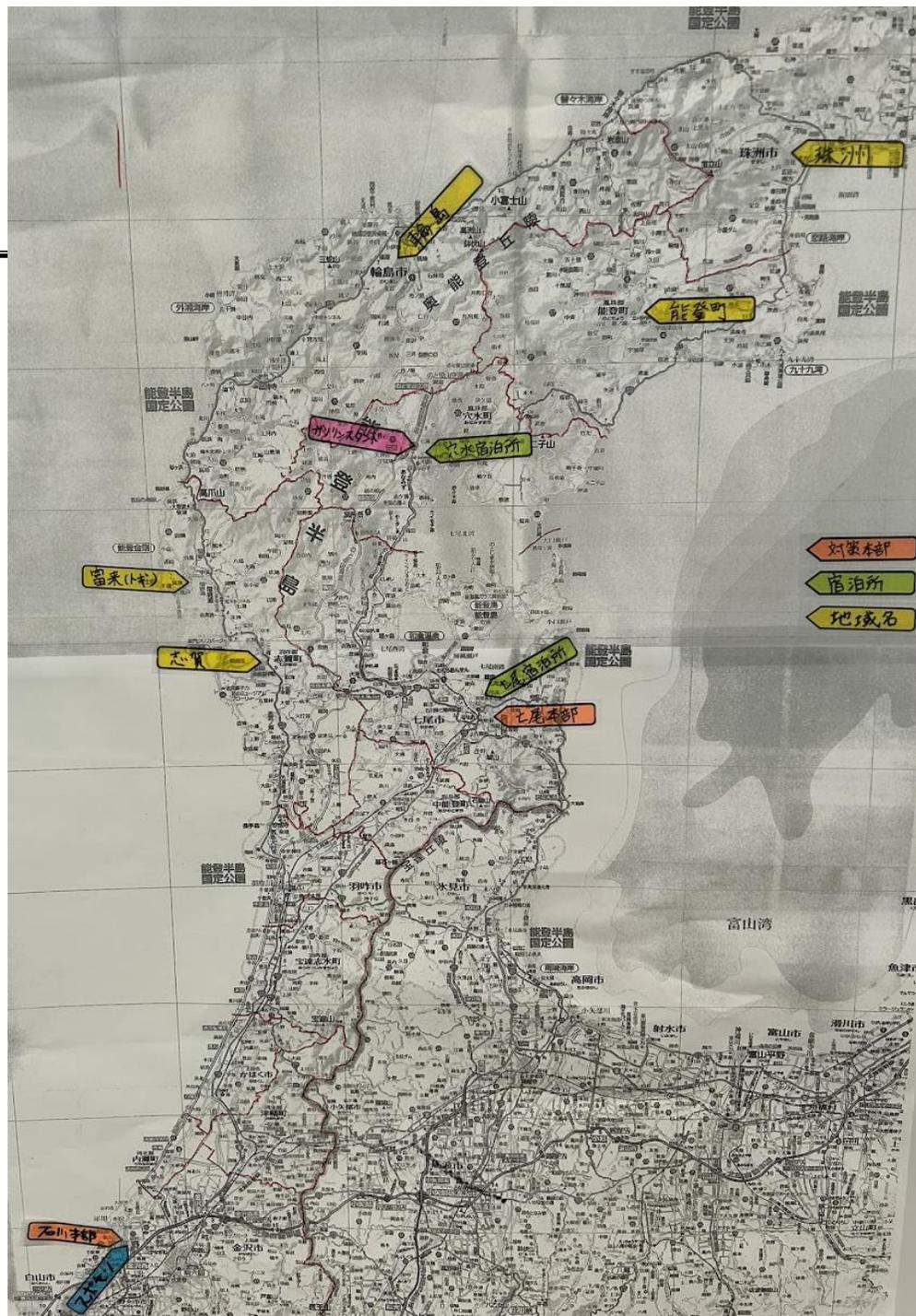
地震災害であるが、被災地は能登方面で限局的
金沢は平時であり、周囲の交通や宿泊施設、食事などの
インフラは保たれていた。



宿泊は支援区域近くで確保できる
職力や飲料水も最小限の携行とした。

現地での動き

- 県庁本部
- 石川本部
- 七尾市本部



2/1 (木) 西配置 12:00仮 15:00確定Lineね!(七尾本部集合時間も)
 グーグルドライブ運用のお願い

石川本部 (090-██████████)

ロジリーダー: 米田OT (~17:00)
 サブリーダー: 吉本PT AM野
 RRT:
 L: 南山PT
 事務局: 金PT, 中寺OT, 松井ST, 戸田PT AMサテ

地域J RAT: 森PT
 人員言調整: 丸居PT (PM)
 記録: 太田ST
 物資会議: 猪狩OT (PM), 徳田ST (AM)

県庁本部 (070-██████████) *県庁本部3名配置

リーダー: 高野OT (PM) RRT:
 サブ: 吉本PT (AM) L: 平原PT
 フリー: 西村Dr.

Nマスク着用

スポーツセンター (090-██████████)

ロジリーダー: 木村PT サブ: 大工谷PT, 西田OT 出口PT
 L: 常深OT, 梅原ST

マルチ サブ

メイン

鹿見島班 (2名)
 ① 2米PT
 ② 神田PT

大分隊 (4名)

- ① 090-██████████
- ② 菅OT
- ③ 高橋隆PT
- ④ 高橋知PT

平木PT (果川)

塚嶋PT

木木OT (果川)

辻OT

前田班 (3名)
 ① 吉野OT
 ② 立石PT
 ③ 須賀ST

石川班

- ② 越前石OT
- ① 石井PT

ST777

中村洋ST

七尾本部 070-██████████ *七尾本部3名は西配置
 0902129 4419
 ロジ: 北谷PT L: 下田PT 高橋PT

珠洲市

輪島

穴水 能登町

志賀 七尾

山支阜隊 (4名)
 080-██████████
 *PM石川本部入

愛知隊 (4名)
 0805-██████████
 *穴水泊

静岡隊 (2名)
 090-██████████
 *穴水泊

兵庫班 (5名)
 DMATと
 *金沢泊

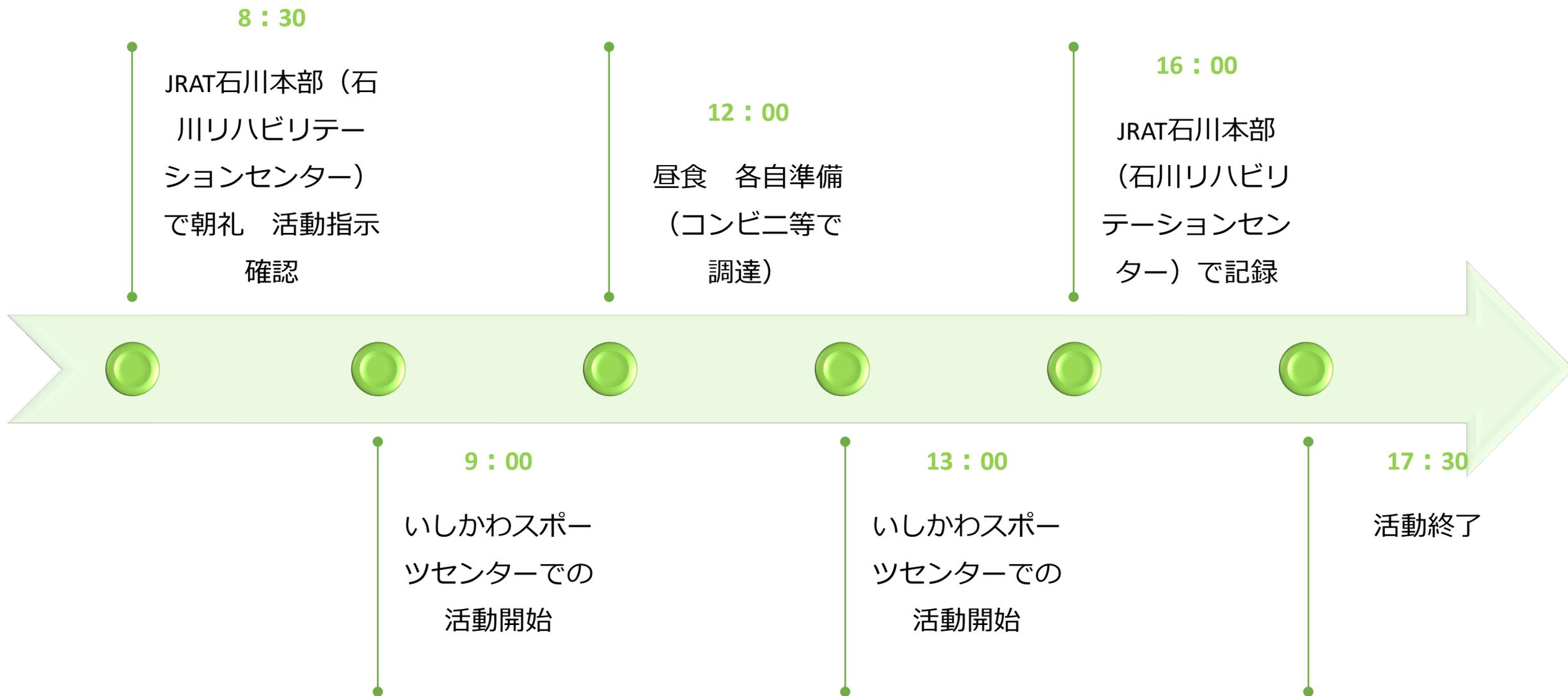
北海道隊 (5名)
 3班
 090-██████████
 *PM石川本部入

千葉E隊 (4名)
 *石川本部入

球

濱野PT 帯同

1日のスケジュール



活動支援部隊の具体的支援内容



- ①避難所環境評価、整備提案
- ②避難所等、要配慮に関する災害リハビリトリアージ
 - ・要配慮者：高齢者・障害児者・難病者・在宅療養者、妊婦・乳幼児等
 - ・助言はしても、直接的リハサービスの提供は原則ない
 - ・速やかに医療や介護保険サービスに繋ぐ
- ③生活不活発対策
- ④リハビリ医療資材等（福祉機器）の迅速・適切な供給
- ⑤避難生活での役割、活動、参加等を提案
 - ・体操指導のみではない

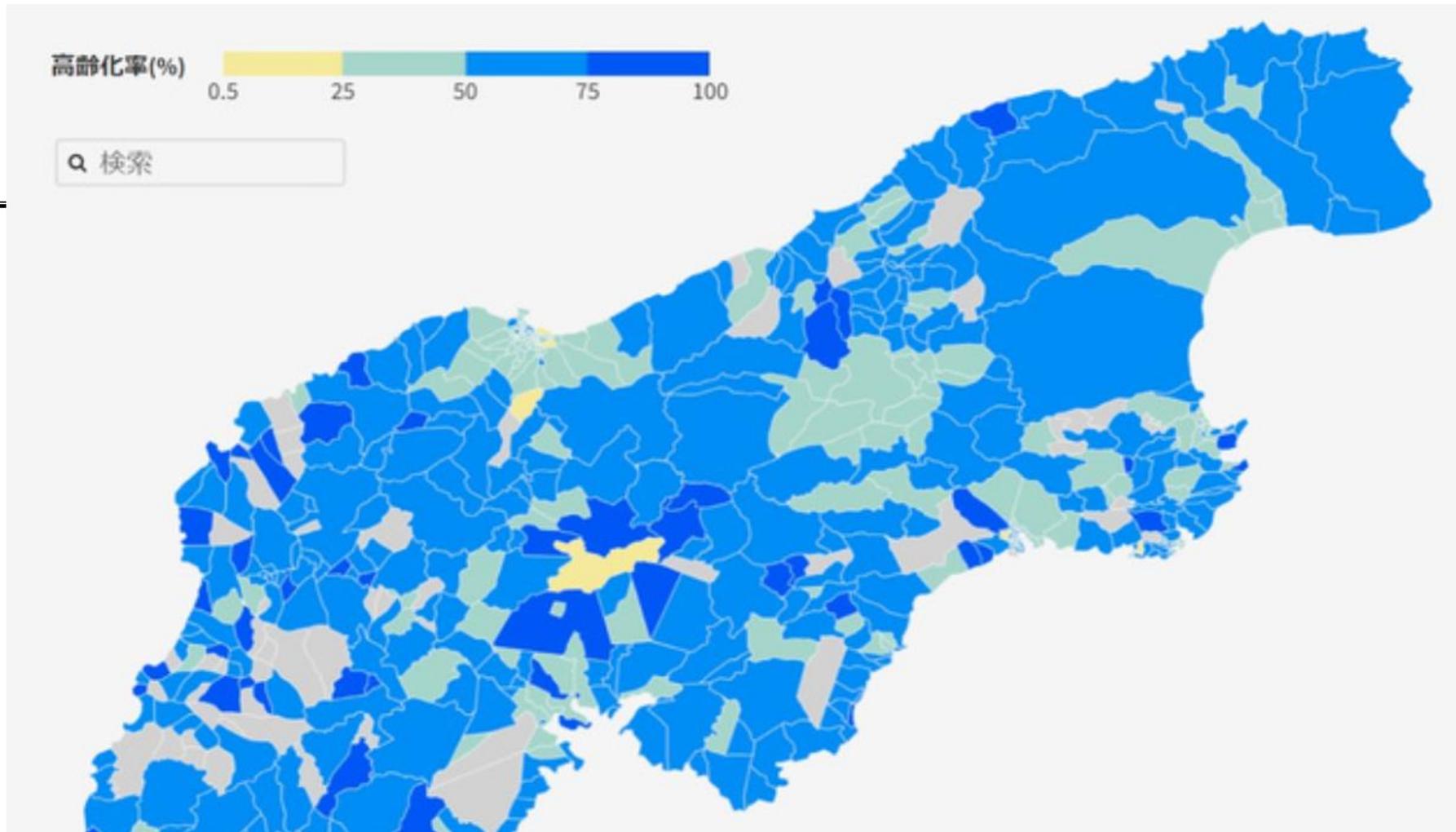
いしかわ総合スポーツセンターでの活動



- 1次避難所…発災直後に被災者が身を寄せる体育館や公民館
- 2次避難所…ホテルや福祉施設など生活や介護の環境が整った施設
- 1.5次避難所…余震などを考慮して少し離れた大型施設などに設けられており、2次避難所に入居するまでのつなぎの避難所と考えられていた。



- なかなか2次避難所（ホテルや施設）の受け入れが進んでいない
- 現地で勤務されている方は「廊下にベッドが溢れている施設もある」と話されていた
- 住み慣れた場所からの移動を望まない被災者が多く、石川県は県外の2次避難所を準備していたが、2月1日、活動時点での入居者は0人であると報道があった。



被災自治体の高齢化率

- 能登地方の人口の50%前後が高齢者である市も存在しており、施設が被災し2次避難所へ入居できない高齢者が多い





1.5次避難所

- 石川県内に3か所設置
 - いしかわ総合スポーツセンター
 - 産業展示館
 - 小松体育館
- 1/31時点では
いしかわ総合スポーツセンターに
約300人



いしかわ総合スポーツセンターでの活動





- 今回は活動開始した時点では施設内の段差解消やトイレまでの動線へのアプローチは整っている状態であった
- 環境は整っており、リハビリトリアージ・経過観察シートがあり、優先度が高く、訪室の必要性が高い利用者を分けてある



-  お手洗
-  多目的お手洗
-  駐車場
-  身障者用駐車場
-  駐輪場
-  公衆電話

メインアリーナ

避難所創設直後

1月8日時点







サブアリーナ



- より介護度が高い方が入所している
- Covidやインフルエンザで入院し、この場所に退院してくる利用者も多かった
- 必要に応じて電動ベッドを利用している人もいる
- トイレはラップポンを使用したポータブルトイレが設置されている



マルチパーパスルーム



- 電動ベッド使用者、要介護度がサブアリーナより高い方が利用されている
- JRAT主体での集団体操の時間を設けていた

実際の支援・活動①



- ・下腿の浮腫を認める利用者が多く、足関節運動や歩行等の運動を促した

- ・「困っていることがありますか？」と声をかけ、ADL動作、施設内での動線で危ないところがないかを確認

あれば評価し、改善・導入を検討

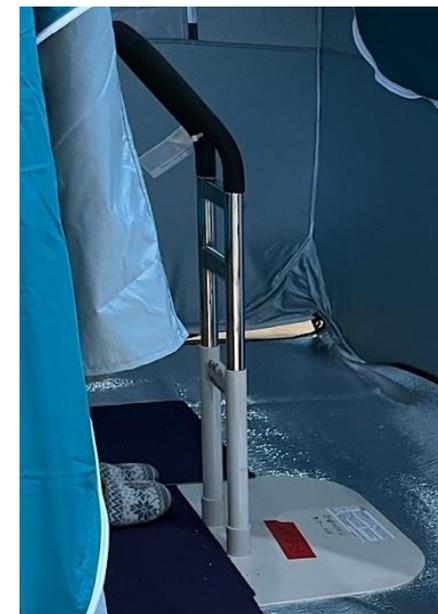
実際の支援・活動②



下腿切断が既往にある方。段ボールベッドからの起き上がりに難渋している

マットレスを硬いものに変更し、起居動作が改善

起立動作も安定性考慮し、タッチアップを導入



実際の支援・活動③



- 両足部の外反変形があり。
- 歩行器歩行移動時にスリッパの踵部を反対下肢で踏んでしまい転倒のリスクが高い。
- DWAT（介護チーム）からJRATのスポーツセンターロジへ依頼があった。









靴を提案したがトイレで履き替えるのが大変
靴に変更すると踵を踏んでしまう



転倒リスクは高く、スリッパ使用がよい

靴の履き替えのないサブアリーナへの移動



スリッパの着脱動作はないがスリッパでの転倒リスクは変わらない

スリッパの踵付近を切る

活動を通してできたこと



- 熊本地震、西日本豪雨と比較すると支援が必要な対象者の割合が多く、普段病棟で勤務し、実際に行っていることの応用や知識を生かすことができた
- 現場でJRATでの情報の共有がしやすく、資料もまとめてあり、比較的スムーズなラウンドができた

まとめ



- 我々は、熊本地震と西日本豪雨災害でJRAT活動支援の経験があったが、今回初めて1.5次避難所での活動の経験を得た。
- 避難所内は9割以上は高齢者という経験したことのない高齢者率で、朝日新聞によると1月23日時点で58%の介護を必要とする状態であるとのことだった。
- 日々の体調の変化や急変、生活不活発病予防、慣れない環境や福祉用具で転倒転落が多発していた。今回の被災地の特徴でもあるが、高齢化のすすむ都市の災害の場合、最終的な受け皿が不足し、災害支援が長期化することが考えられ、私たちの支援がどこまで介入できるのかの線引きが改めて難しいと感じた

今後の課題

・情報共有

→限られた期間の介入であり、効率的な介入のためにJRAT活動部隊内での申し送り等の工夫

→医療職者や役所職員と、避難所内での情報共有方法

・金銭面

→支援活動には大きな費用を要し、所属病院・施設の支援が不可欠

・災害リハビリ支援の必要性認知

→各医療団体やリハビリ職への啓蒙

→医療職以外の人々への認知

